

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2022年第15週 2022年4月11日（月）～ 2022年4月17日（日） 2022年4月21日作成

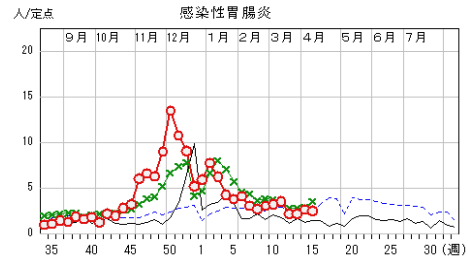
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1） 感染性胃腸炎

第15週の報告数は111人で、前週より5人少なく、定点当たりの報告数は2.52であった。

年齢別では、2歳（27人）、1歳（22人）、3歳（22人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（4.83）、県北保健所（4.67）、県央保健所（4.67）であった。

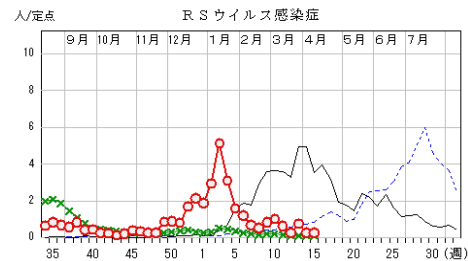


（2） RSウイルス感染症

第15週の報告数は12人で、前週より1人多く、定点当たりの報告数は0.27であった。

年齢別の患者報告数は、1歳未満（11人）、1歳（1人）であった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（2.00）、五島保健所（1.25）、県北保健所（0.67）であった。

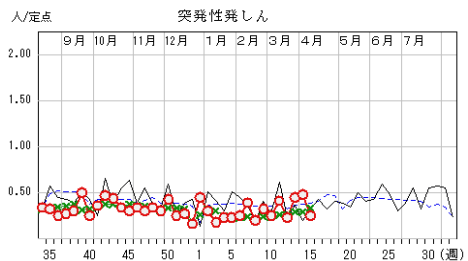


（3） 突発性発しん

第15週の報告数は11人で、前週より10人少なく、定点当たりの報告数は0.25であった。

年齢別の患者報告数は、1歳未満（5人）、1歳（3人）、2歳（3人）であった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（0.67）、県北保健所（0.67）、県南保健所（0.40）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
× 当年(全国) 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第15週の報告数は111人で、前週より5人少なく、定点当たりの報告数は2.52でした。地区別にみると佐世保地区（4.83）、県北地区（4.67）、県央地区（4.67）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【RSウイルス感染症】

第15週の報告数は12人で、前週より1人多く、定点当たりの報告数は0.27でした。地区別にみると、対馬地区（2.00）、五島地区（1.25）は他の地区より多く、前週より増加しています。今後も動向に注意しましょう。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。ワクチンはなく、接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【突発性発しん】

第15週の報告数は11人で、前週より10人少なく、定点当たりの報告数は0.25でした。

本疾患は乳幼児期に発症するのを特徴とする熱性発疹性疾患で、原因の多くはヒトヘルペスウイルス6および7です。38度以上の発熱が3日間ほど続いた後、解熱とともに鮮紅色の斑丘疹が体幹を中心に顔面、四肢に数日間出現します。随伴症状として、下痢、眼瞼浮腫、大泉門膨隆、リンパ節腫脹などがあげられますが、多くは発熱と発疹のみで経過します。ほとんどが2歳未満に罹患し、予後良好のため、対症療法にて経過観察するのみで、特に予防が問題となることもない疾患です。

★トピックス：マダニやツツガムシの活動が活発な時期です。ご注意ください！

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、食品等に発生するコナダニや衣類、寝具に発生するヒョウダニなど、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。

マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のおりつつが虫病を媒介します。

春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期ですので、野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがありますので、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

（参考）長崎県医療政策課 ダニ媒介性感染症「ダニ媒介性感染症の予防」

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansenshou/tick/>

（参考）国立感染症研究所 昆虫医科学部ホームページ「マダニ対策、今できること」

<http://www.niid.go.jp/niid/images/ent/PDF/170511madanitaisaku.pdf>

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2017	2018	2019	2020	2021
SFTS	11	4	8	6	6
日本紅斑熱	20	19	15	18	28
つつが虫病	8	8	1	11	14

